

DPRI Award 設立の趣旨および

第7回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 畑山 満則

防災研究所は、国内外で発生する自然災害を研究対象とすることから、国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなど積極的に取り組んできました。平成22年度に認定され開始した共同利用・共同研究拠点は平成28年度から2期目に入り、来年度には3期目の認定を目指しております。また、防災研究所が事務局を務める世界防災研究所連合(GADRI)は来年度、第5回世界防災研究所サミットを開催いたします(本来、今年度に予定されていたものですが新型コロナウイルス感染症の世界的流行により開催が延期されました)。このように防災研究所は頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点として、その地位を確立するために、様々な新しい取り組みを推進しています。

これらの一環として平成23年3月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方となっております。

平成25年度には第1回の防災研究所国際表彰 DPRI Award をカリフォルニア工科大学名誉教授の金森博雄博士に授与いたしました。また、平成26年度には第2回 DPRI Award をメキシコ自治大学教授のフランシスコ・サンチェズ

セスマ博士に、平成27年度には第3回 DPRI Award をウォータールー大学教授のキース・ハイベル博士に、平成28年度の第4回 DPRI Award では、ローザンヌ大学教授のミシェル・ジャボイエドフ博士と国際応用システム分析研究所のリスク・レジリエンスプログラムに授与いたしました。平成30年度の第5回 DPRI Award ではネバダ大学リノ校教授のジョン・グレッグ・アンダーソン博士に「研究教育業績賞」を、令和元年の第6回 DPRI Award では、ノーサンブリア大学教授のアンドリュー・コリンズ博士に「研究教育貢献賞」を授与しました。

今回、令和2年度の国際表彰について、令和2年10月に防災研究所の中北教授から推薦があり、表彰選考委員会で慎重に審議しました。その結果、台湾国立防災救助技術センター（NCDR : National Science and Technology Center for Disaster Reduction）前センター長の陳亮全（チェン・リアン チュン Liang-Chun CHEN）博士を「研究協力貢献賞」として、第7回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の受賞者として所長に推薦することを決定いたしました。その後、所長の承認を受け、これを教授会に諮り承認されました。

チェン教授は1947年台湾に生まれ、1971年中原工科大学建築学科卒業後、早稲田大学大学院建築学専攻に進まれ、1976年3月に修士、1986年3月に博士課程を修了され、工学博士の学位を取得されております。

チェン教授は、都市計画学・設計学、コミュニティ形成、防災・減災学を専門とされ、台湾大学建築都市農村研究所、土木工学科・研究所共同副教授を経て、2005年8月から国立台湾大学建築都市農村研究所教授を勤め、2012年7月にご退官されています。その途中から、台湾国立防災救助技術センター（NCDR）の設立・設計に深く関わり、2003年7月からは同センター所長代理、2006年からは所長を務め2014年4月に退官されました。2015年には台湾における最高の栄誉とされる行政院傑出科技貢献賞を受賞されています。

チェン教授は、サイエンスをベースとした災害リスクマネジメントを提唱した台湾で最初の研究者であり、公助と共助・自助の連携により、災害に対するレジリエンスを高めることに大きく貢献してこられました。その結果として台湾の災害リスクマネジメントは飛躍的に進展し、世界をリードするに至っています。

防災研究所との関係は、チェン教授が1995年阪神・淡路大震災の復旧・復

興の体系を台湾に紹介する際に林春男教授（現防災科学技術研究所理事長）と強く密な関係を築いたことに始まる。2006年には防災研究所が主催する「第6回自然災害軽減に関する合同ワークショップ」に、最初の台湾の災害リスクマネジメント専門家として参加されました。2007年に防災研究所が、文部科学省「気候変動予測に関する21世紀革新プログラム」に参加した後には、防災研究所との関わりを風水害全般や気候変動予測・適応にも広げるべく、関連するNCDRの研究者を引率して防災研究所を訪問するとともに、防災研究所の研究者を台湾に招聘してWSを毎年開催されました。これら一連の防災研究所との協働をベースとして、NCDRと防災研究所は2010年にMOUを締結し、その後も、陳教授のリードにより毎年共同ワークショップを開催し、2014年に陳教授がセンター長を退官後も、培われた相互信頼を基に、継続開催されています。2014年AOGS(Asia Oceania Geosciences Society)札幌大会では気候変動に関する日台共同セッションを中北教授とともに主催し、その後の2018年AOGSハワイにおける日台韓共同セッションへと発展させています。

また、台湾で発生した多くの災害において災害調査のコーディネータを務めていただき、災害学理の究明に多大な貢献をいただいております。

これらの一連の共同研究で築かれた信頼関係を土台に、NCDRは世界防災研究所連合（GADRI）に参加し、幹事研究所としての重要な役割を積極的に果たしていただいております。

これらのチェン教授や教授のネットワークを通じた継続的な共同研究の実績は、防災研究所の国際的な学際研究、異分野融合研究を牽引し、国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。チェン教授には、これまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号のDPRI Fellowとして、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたく存じます。